

特集日食報告

武漢での皆既日食

坂田肇（滋賀県守山市）

日通旅行の日食ツアー「武漢チャーター1泊2日」で、中国の武漢（ウーハン）に行ってきました。武漢は上海より西へ約600kmに位置し、人口720万人の大商工業都市です。3500年にわたる歴史があり観光スポットも多い都市だそうです。今回は「ただ日食を見る」という目的だけのツアーです。チャーター機なので、乗客は全員この日食ツアーの方々です。7月21日12時20分に中部空港を飛び立ち、3時間40分あまりの飛行で武漢に到着しました。気になっていた天候ですが晴れていました。ひとまずホットしました。バスに乗り込み高速道路を使って、先ずは明日の観測地の下見に行きました。走行中、バスからは広大な平地と荒地、最近建築されたであろう近代的なビル群が遠望され、これからどんどん変わってゆくであろう中国の姿を感じました。



武漢の高速道路



武漢市街地

観測地は人工芝のサッカー場で、これは暑さを相当覚悟せねばと思った次第です。

ホテルに入り、日食ツアーの方全員で夕食となりました。10人程度で各々のテーブルを囲んで、日食に関する話題でどのテーブルも盛り上がっていました。夕食後、専門家の方から明日の

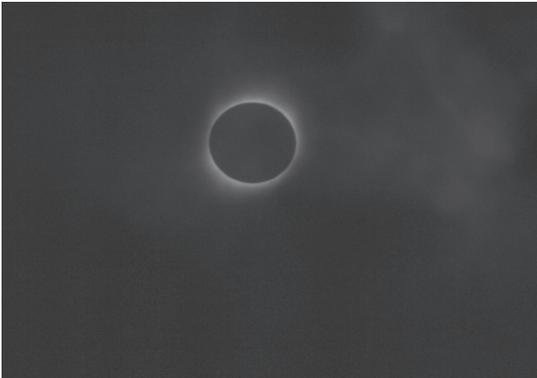


☆・武漢での皆既日食・☆

日食の見所などの説明会があり、暑さ対策にペットボトルのミネラルウォーターを5本買って、早めに就寝しました。

明けて7月22日、日食当日です。最大の関心事の天候は“曇り”。完全に曇っている訳ではないのですが、どうなるかと心配しつつ7時にホテルを出ました。近代化による高層ビルなどと、昔のままの街の姿が混在している市街地を通過して観測地に向かいます。

ここでの日食の概要は、現地時間で8時14分に部分食が始まり、皆既は9時23分59秒から5分27秒続きます。この時の高度は48°位と非常に見やすい高さです。日食の終了は10時46分と予定されていました。人工芝の上では無く、丁度良い高さのコンクリートに腰掛けて、日食の開始を待ちました。午前中である事と曇っている為か、暑さの方は問題ない状態ですが、雲を気にしつつ日食の開始を待ちました。カウントダウンで日食の開始が告げられましたが、直ぐには欠けている事は解りませんでした。暫くして、廻りの方の“ああ・・・欠けている”という声を聞きつつ、「本当に日食を見ているのだなあ」と妙に感心しました。途中、雲の量がかなり多かった為、日食グラスをかざしたり外したりしながら、雲を通して欠けていく太陽の姿を追っていました。雲の量は一向に減りません。皆既の時刻が近づくと、“すう・・・と”周りが急速に暗くなりました。“皆既の始まり”という声と共に、コロナが見えました。外に広がる外部コロナは見られませんでした。とにかくコロナが見えて感激状態です。周りのはかなりの暗さです。雲量が多いため、写真撮影の露出も適当に変えて、どうにか1枚撮れました。



皆既中コロナ

コロナがずっと見えてはいないので、かえって周りを見たりする余裕が出て、「こんなに暗くなるのですね。シリウスが見えていますね。」等、隣の方と話をしながら楽しみました。



皆既終了直後の風景

復円中

いつの間にか皆既が終了し、次第に復円してきました。皮肉にも、それと共に雲の量も減ってきました。こうして日食観望は終了しましたが、いわゆる日食病に罹った様です。やはり雑誌などで見る素晴らしいコロナを、この眼で見たいと強く思いました。次回の日本での皆既日食は2035年という事ですが年齢的にも難しい様です。それまで待たずに元気な内に、海外に出かけて見たいと思ったりもしています。

特集日食報告

大阪府寝屋川市における日射量の測定データ

溝井浩（大阪電気通信大学）

部分日食観測会の報告

2009年7月22日には、大阪電気通信大学の工学部・基礎理工学科主催による部分日食観測会が、寝屋川キャンパスにおいて開催されました。学内外から300名余りの方が参加されました。当日はあいにくと、朝から曇り空で、 $H\alpha$ 太陽望遠鏡などの観測機材を用意していましたが、出番はありませんでした。それでも、ときおり薄い雲越しにうっすらと姿を見せる太陽が、欠けていく様子を、肉眼で観察することができました。最大食に近いときに撮影した写真を図1に示します。また、硫黄島からのインターネット中継[1]を大型テレビで放映し、皆既日食をライブで観察することができました。

観測会終了後に、本学の実験棟屋上に設置された気象計のデータを調べ